

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 演劇のまち振興事業団	
施 設 名	能登演劇堂	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	2,300	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	2,300	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	2018能登演劇堂普及啓発事業	平成30年8月4日・5日	演目：雨があがれば 演出：原田一樹 出演：七尾市民劇団 劇団N	目標値	800
		能登演劇堂		実績値	946
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	800
				実績値	946

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当初の計画通りに事業が進められ、能登演劇堂を核として「演劇のまち発信」と「演劇によるまちの活性化」が図られた。

舞台奥大扉が開き、自然と舞台が一体化する世界に類を見ない演劇専用ホール能登演劇堂。その特色である舞台奥大扉を開いた演出効果のある高校生ワークショップや市民劇団公演を中心に、まちなか小劇場公演や小学生アウトリーチなど幅広く市民に演劇文化を広めることができた。

①高校生ワークショップ

夏休み期間を活用した4日間のワークショップとし、中部6県の高校生が参加しやすいようにしている。

②小学生ワークショップ

アウトリーチとし、普段の教室で演劇ワークショップを楽しんでもらった。

③まちなか小劇場公演

演劇文化ゾーン形成を見据えた、能登演劇堂に隣接する中島地区コミュニティセンターを会場とし、地元演劇人の出演により入場者数は目標値の2倍となった。

④市民劇団公演

公演内容に適した8月に開催し好評を得た。大道具製作など市民や地元高校演劇科の生徒がボランティアで参加し、キャスト・スタッフとも市民が中心となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

演劇文化によるまちづくりを進めるなかで、継続して普及啓発活動を行ってきた。普段、劇場で演劇を観ない市民が演劇に触れることにより、演劇文化を広く市民に親んでもらえたことや、七尾市が能登演劇堂を核として演劇のまちを発信していることが広く社会に浸透してきていると思える。

社会全般として、公共ホールが年間を通して自主事業を行っていることは多くはなく、また、その大部分が行政の補助金や国の助成金などに頼るなか、能登演劇堂においては入場料率も高く推移している。

チケット収入の無いワークショップや、チケット料金の低額な市民劇団公演など、採算性の低い事業を助成による普及啓発事業として行ってきたことは、社会において演劇を通じたまちづくり、人づくりに大きく貢献しているといえる。能登演劇堂の名は、広く県内外に知られてきており、地元高校演劇科の卒業公演など演劇教育も浸透している。

高校生ワークショップでは、中部6県の多くの高校生及び教師が参加し、市内に宿泊することによる経済効果もあり、助成に値する経済効果、経済波及効果が認められる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

高校生ワークショップでは、中部6県の高校生が夏には能登演劇堂でワークショップを行い、最終日には舞台上で発表することが定着しており、演劇に興味がある高校にとって大きな意義がある。また、ワークショップでは、4つの分科会があり、好みの分野を選べることから評判も良く、夏休み期間中の貴重な体験となった。

小学生ワークショップは、県内の劇団が講師となり各学校でワークショップを行うことで、児童が教室で普段の授業とは違った演劇教育を親しんでもらい、普及事業として有意義であった。

まちなか公演では、七尾市出身の演劇人による公演で親しみがあり、目標の2倍の入場者となった。劇場以外の場所で公演を行ったことは、気軽に演劇に触れることができ、普段劇場に足を運ばない人にも幅広く演劇に親しんでもらえた。

市民劇団公演では、一流の演出家による指導や、劇団員と共に大道具などを製作したことでスタッフの育成に繋がった。また、小道具や大道具の製作では、地元高校の演劇科の生徒や卒業生が参加し、能登演劇堂の支援の輪が広まってきている。

このように、実施した普及啓発事業は、演劇文化によるまちづくりを進める上で地道ではあるが着実に成果を上げているといえる。目標に対しては、それぞれの参加者数・入場者数・ボランティア数・アンケート調査の分析等、事業終了後に取りまとめており、全体として目標を達成したと判断している。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

①高校生ワークショップ

3日間のワークショップ、4日目の成果発表と計画通りに終わった。夏休み期間中でのワークショップであり、日数が増えると生徒の滞在費などの自己負担も増えることから、4日間のワークショップは適切であると認識している。また、事業費のうち講師謝金などの助成割合は4分の1程度であり、106人も高校生のワークショップとして大きな成果を上げた。

②小学生ワークショップ

アウトリーチとし、1日間のワークショップで演劇に親しんでもらい、目的どおりの成果を上げた。事業費は、県内劇団の謝金のみで費用対効果が大きく、計画通りの成果を上げた。

③まちなか公演

会場がコミュニティセンター多目的ホールであったので照明・音響などの設備もあり、公演の前日準備をすることもなく、当日リハール・本公演のスケジュールで問題が無かった。

出演者は、前泊のみで宿泊費を抑え、また、入場者も多く計画以上に大きな成果が得られた。

④市民劇団公演

8月4日の初日に向けて、台本の製作・稽古・舞台装置製作と計画通りに進み、2公演を終えた。演出家をはじめスタッフは、市内の空き家を借り入れて宿泊するなど経費の削減に努め、また、大道具などの製作においても劇団員や地元高校の演劇科生徒、卒業生などのボランティアが携わることで製作費を抑え、ほぼ計画通りの事業費で公演を行うことができた。

○全体を通して

8月17日からの高校生ワークショップから翌年2月3日のまちなか公演を事業期間とした平成30年度の普及啓発事業は計画通りに進み、また、事業費においてもほぼ計画通りであり適切であった。

ただ、助成対象外経費では、猛暑により冷房費（光熱水費）が増えるなどの経費の増額があったので、今後は、事業実施時期や天候などにより光熱水費が増額とならないよう電力計・燃料計を注視しながら経費削減に努めたい。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

市民文化活動の創出・拠点として取り組んだ高校生ワークショップや市民劇団公演では、演劇専用劇場で成果発表や公演を行う貴重な体験ができ、また、能登演劇堂の特徴である舞台奥の大扉を開き、外舞台を使った演出を行うなど、ここでしか体験することのできない大きな成果を上げた。

能登演劇堂は、全国的にも類を見ない演劇専用ホールであり、俳優の仲代達矢氏が監修し、平成7年に開館した。開館後は、毎年無名塾公演の初日は能登演劇堂を会場とし、地方ではまれなロングラン公演をほぼ4年毎に開催している。また、著名な演劇人の公演の開催など、演劇文化の発信に努めている。

市民文化活動の育成・市園、そして市民参加型ともいえる市民劇団公演や芸術普及活動の小学生ワークショップ（アウトリーチ）、普段劇場に足を運ばない人にも演劇を観て頂く普及型のまちなか小劇場公演など、市の文化拠点としての機能を十分に発揮した事業であったと認識している。

- ①「演劇文化でにぎわうまちづくり」を目指す演劇専用ホール能登演劇堂
- ②俳優仲代達矢氏が監修し、名誉館長及び七尾市名誉市民となっている
- ③開館後、無名塾によるロングラン公演を4年ごとに開催している
 - 1995年 こけら落とし公演「ソルネス」
 - 1997年 第1回ロングラン公演「いのちぼうにふろう物語」
 - 2001年 第2回ロングラン公演「ウィンザーの陽気な女房たち」
 - 2004年 第3回ロングラン公演「いのちぼうにふろう物語」
 - 2009年 第4回ロングラン公演「マクベス」
 - 2013年 第5回ロングラン公演「ロミオとジュリエット」
 - 2017年 第6回ロングラン公演「肝っ玉おっ母と子供たち」
- ④舞台奥大扉が開き、自然と舞台が一体化する世界に類を見ない演劇専用ホール
- ⑤高校生ワークショップや市民劇団公演など独創性のある事業展開
 - ・中部6県の高校生を対象としたワークショップ（外舞台を活用）
 - ・一流の演出家による市民劇団公演（外舞台を活用）
 - ・小学生を対象としたワークショップ（アウトリーチ）
 - ・劇場以外で開催するまちなか小劇場公演
- ⑥能登演劇堂バックステージツアーと演劇のまちあゆみコーナー
 - ・バックステージツアー
 - 舞台奥大扉の開閉と楽屋など普段見ることのできない場所を見学
 - ・演劇のまちあゆみコーナー
 - 能登演劇堂のこれまでの取り組みや演劇によるまちづくりの成果を展示

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

能登演劇堂でワークショップや市民劇団公演を行っていることは、「演劇専用ホールでも市民が舞台に立てる」、「能登演劇堂で発表を行ってみたい」など、能登演劇堂で発表会などを行うことで市民の実演芸術の振興に寄与していると認められる。

地元の小学校では寸劇や音楽などの学習発表会を行っており、市民文化祭中島支部では芸能発表会を行っている。近隣の市町の文化団体においても、能登演劇堂の舞台奥大扉を開いた演出で発表会を行うなど、普及活動が浸透してきていると判断できる。

このような発表会などでは、音響・照明のプランや操作、舞台奥大扉の開閉などの技術提供を行っており、利用者はスタッフの手配などの必要もなく利用できる。市民からの要望などには、アンケート調査を実施するとともに、事業の計画を立てるにあたっては公演選定委員会を開催するなど、地域や市民のニーズに対応している。

また、能登演劇堂のホームページでは市民劇団公演の劇団員募集や、一般公演のエキストラ募集、劇団との交流会の開催など広く情報発信している。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当事業団は七尾市より指定管理を受けており、施設の管理と劇場の運営を行っている。管理費については指定管理料、運営費については補助金としての収入があり、職員の人件費や事業に対する補助金などについて精査し、予算確保に取り組んでいる。特に人件費については、全正規職員となるよう協議しており、また、職員のスキル向上についても、研修会への参加・資格の取得など積極的に推進している。

劇場間のネットワークでは、石川県公立文施設連絡協議会に所属しており、総会や研修会を通し情報交換・技術研修・公演のPRなどに取り組んでいる。

安定的な収益として、友の会会費及び賛助会員協賛金があり、友の会会費については、開館以来年間18,000円であったが、消費税や公演費の増額を見据え、値上げを検討している。値上げに当たっては、会員の減少に繋がらないよう公演の精査や会員の特典の充実など、充分考慮して行くこととしている。

また、賛助会員協賛金については、法人30,000円/1口、個人10,000/1口であり、それぞれ1公演を招待していたが、今年度より法人会員については2公演を招待することとし、特典の充実と賛助会員の増加に繋げることとした。

この事業の中で、特に市民劇団公演においては、大道具や小道具の製作・装置や照明などの仕込みの手伝いなど、市民や高校演劇科の生徒のボランティアが携わっており、また、一般の公演においても、搬入搬出やもぎりなど多くのボランティアが携わっており、劇場の運営において不可欠な存在となっている。

毎年度末、次年度の事業計画及び予算について理事会で承認を得、年度初めより営業活動を実施し事業を行っていくが、それぞれの事業ごとに営業計画を立てて行動し、事業終了後の入場者数や入場料、アンケート結果を検討している。営業の手法や演目の選定、入場料金の設定などに問題があれば入場者数に表れるので、反省点や改善点を検討し次年度に繋げているわけだが、当初の行動計画通りに進まない場合は、その都度迅速に計画変更などを行い行動する必要がある。

このように、毎年度の経験を踏まえながら、「演劇文化によるまちづくり」を推進するうえで、友の会員や賛助会員などの安定的な収益基盤と財源確保に取り組み、合わせて職員の資質向上とボランティアの育成など基盤強化を図りながら、地道な取り組みを継続しており、組織活動が持続的に発展したと判断している。